

第4章 事業の成果

1 人工林整備事業

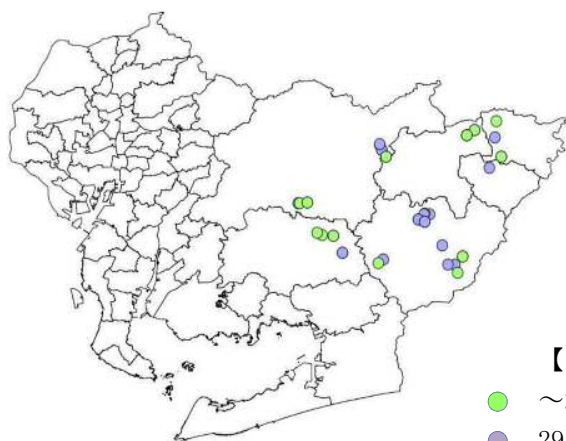
- 森林活動では整備が困難な森林（人工林）の整備が進みました。
- モニタリング調査の結果では、下層植生の増加や光環境の改善（樹冠の開空率の向上）が確認されたほか、残存木の炭素固定量の増加が期待されました。
- 期待される効果を貨幣換算すると、年間で206億円以上と想定されます。

■事業対象森林と整備実績

- 事業開始時の林業活動では整備が困難な森林15,000haの内、9年間で13,272ha（見込み）の間伐を実施し、早急に間伐が必要な森林の整備が進みました。

■モニタリング調査結果

- あいち森と緑づくり事業は、森林の公益的機能の維持増進を目的としています。
- 事業による効果を検証するため、県内各地の事業地の中から、2014年度から2016年度は31か所、2017年度は上記31か所のうち20か所において、下層植生や森林被害（風害・食害）のモニタリングを実施しました。
- また、愛知県森林・林業技術センター試験林において、強度間伐の調査地を設定し、残存木の生理特性等の評価を行いました。



ア 下層植生の回復状況

- 強度の間伐（注）を実施した結果、下層植生による植被率は、3年目以降に著しく増加し、7年後も維持されることが確認されました。

（注）林業活動による間伐は、通常20~30%の間伐率であるのに対し、あいち森と緑づくり事業による間伐は、下層植生の導入を図り、針広混交林へ誘導するなど、維持管理に手間がかからず、公益的機能を十分に発揮する森林への誘導するため、本数間伐率が原則40%以上の強度の間伐を実施しています。

<林内の様子>

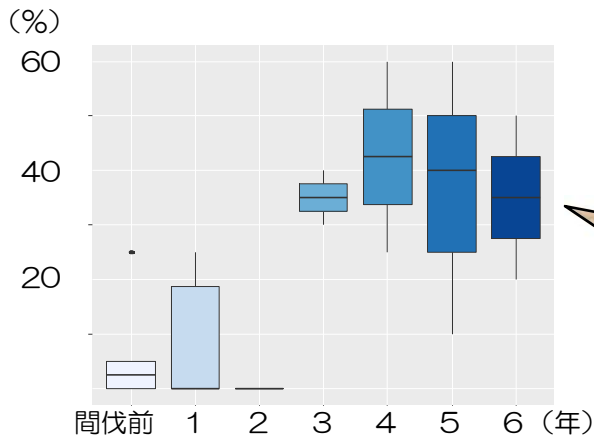


間伐直後（植被率 5%）



3年後（植被率 65%）

（調査地：新城市上吉田 地内）



注：グラフの口印は、数値の分布を示している。
横太線は平均値を示している。

- 3年目に急激に増加
- 7年目も効果が持続

図 4-1 事業地における林床植物の植被率

イ 開空率

- 間伐による光環境の改善効果を、開空率により調査した結果、間伐後4年程度は効果が持続することが認められました。
- その後は林冠が閉鎖していくことが予想されるため、今後も引き続きモニタリング調査を実施していきます。

<間伐前後の林冠の様子（全天空カメラにより撮影）>



間伐前

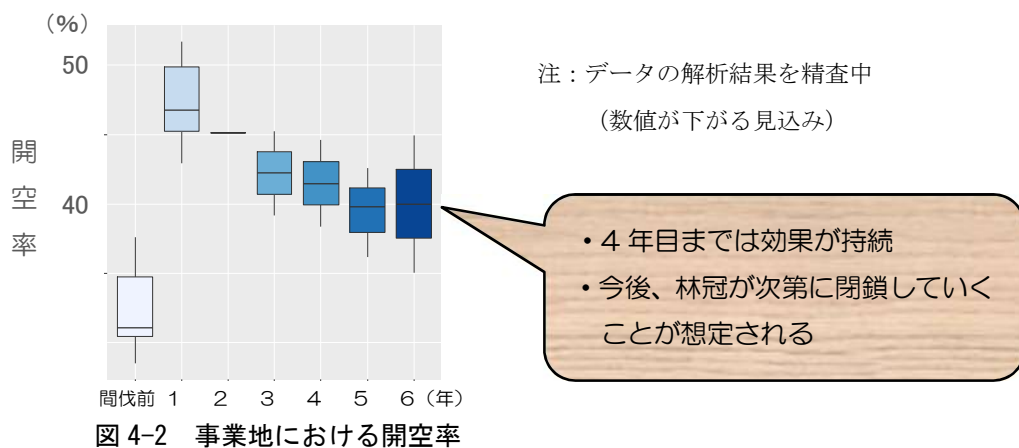


間伐後 1 年目



間伐後 3 年目

（調査地：新城市上吉田 地内）



ウ 森林被害（食害）の有無

- 強度の間伐を実施すると、風害（風による倒木や幹折れ等）の増加や、下層植生の回復によるニホンジカの食害の増加などが懸念されますが、事業地 31 か所でモニタリング調査を実施した結果、これら被害の増加は認められませんでした。

エ 強度間伐による立木の成長状況

- 強度間伐の結果、樹冠の下層まで光が差し込むことにより、生枝下位置における光飽和時の最大光合成速度が増加し、樹木全体として炭素固定量が増加することが期待されました。
- 樹高、胸高直径（地面から高さ 1.2m の位置の直径）については、強度間伐による効果は少なくとも施業後 5 年経過した時点では、顕著な差は見られませんでした。強度間伐による成長促進効果は、間伐数年後から認められるという報告もあり、今後、さらに調査していきます。

調査結果を掲載予定

オ 土砂流出防止機能の状況

- 間伐による下層植生の繁茂が土砂流出防止機能を向上させているかを調査するために、土砂受け箱を設置して流出量の調査を行いました。

29 年度調査実施。最終報告までに調査結果とりまとめ予定



■間伐の定量的効果の例

- 針広混交林など公益的機能を発揮する森林へと誘導していくためには、長い年月が必要となりますが、モニタリング調査により明らかとなった事業効果は、これらの森林への誘導の第一歩です。
- 事業を実施したことにより期待される効果について、主なものを定量的に評価すると次のとおりとなります。（※林野庁作成資料を基に計算）

ア 降水の貯留・洪水の防止

- 事業実施により期待される効果を貨幣換算すると、約 161 億円／年に相当。

イ 表面浸食（土砂の流出）の防止

- 事業実施により期待される効果を貨幣換算すると、約 45 億円／年に相当。

間伐の定量的効果の例

論点 1-②関係
林野庁作成資料

	間伐の効果の説明	1haあたりの効果の試算(例)	10万haあたりの効果の試算(例)
国土保全効果	樹木の根が土壌を斜面につなぎ止めるとともに、落葉落枝や下層植生が土壌の表面を保護することにより、土砂の流出をくい止め、豪雨の際の土砂災害を防止する。	土砂流出量 10m ³ /年 → 1.3m ³ /年に減少 (参考)約337千円に相当する効果 (砂防堰堤の建設費で代替)	東京ドーム(124万m ³)約3/4杯分に相当する土砂流出を防止 (参考)約337億円に相当する効果 (砂防堰堤の建設費で代替)
水源涵養効果	雨水を森林土壌にいったん貯留し、地中に浸透させゆつくと河川に流出させることにより、河川への水の流出量を平準化し、洪水や渇水を緩和するとともに、雨水の水質が改善される。	雨の貯留量 6100m ³ /年 → 6700m ³ /年に増加 (参考)約1,213千円に相当する効果 (治水ダム等の減価償却費及び年間維持費等で代替)	東京ドーム(124万m ³)約50杯分に相当する雨をいったん貯留 (参考)約1,213億円に相当する効果 (治水ダム等の減価償却費及び年間維持費等で代替)
二酸化炭素吸収効果	間伐を実施することにより、国際約束上の森林吸収量としてカウントされる。	CO ₂ 吸収量 8.8t/年 (スギ40年生の人工林の吸収量)	約40万人分の二酸化炭素排出量に相当 (人口40万人…品川区や千葉県柏市の人口)
雇用効果	山村地域において、間伐の実施を担う者の雇用が生み出される。	雇用量 12~13人・日	年間約6000人分の通年雇用を森林地域に生み出す

(注) 間伐の効果については、数値として試算できる一部の機能を評価したものであり、その試算額については、長期的な効果も含めて、一定の前提をおいた試算である。

19

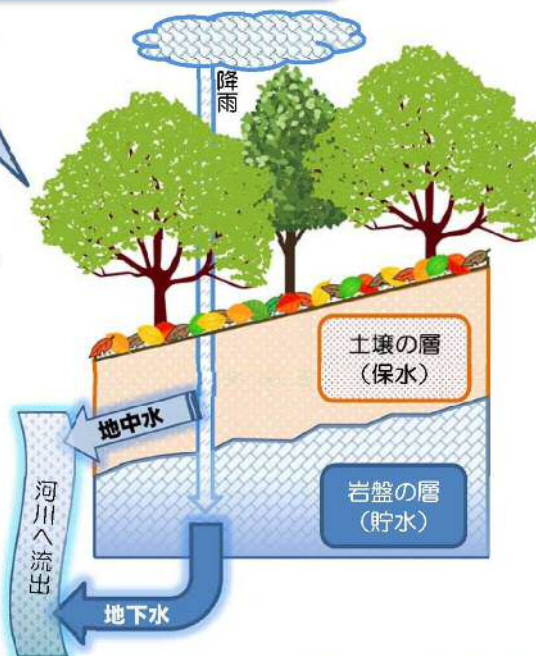
(出展：「森林吸収源対策税制に関する検討会議」資料)

森林はどうやって水を貯えているの？

健全な森林の土壌が
スポンジのように
雨水を吸収し、保水する！

森林の土壌は、岩盤が風化してできた石や砂に植物や動物などの作用が加わり、スポンジのように大小多くのスキマがあります。このため、**森林は裸地に比べて3倍以上の雨水が浸透**し、土壌に保水され、岩盤中の地下水に貯えられながら、緩やかに河川に流出していきます。

森林が健全であれば、豊かな土壌がつくられ、水源涵養機能も高くなりますが、森林が適切に管理されず、荒れてしまうと洪水や渇水などのおそれが高まることとなります。



森林はどうやって土砂災害を防いでいるの？

1. 樹木の根が土壌や岩石を固定！



樹木は、生長とともに地下に深く、広く根を張っていきます。この根は、土壌や地中の岩石の間に張り巡らされ、樹木の体を支えるとともに、土壌にとっては杭のような役割を果たし、山崩れを防ぐ働きをします。

2. 下草や低木、落ち葉などが
雨水から表土を守る！



森林の下草や低木、落ち葉などは、雨水の衝撃から表土を守る役割を果たしています。たまった雨水が流れだすときも、その流れを緩やかにして表土の流出を防いでいます。

このため、**森林は裸地に比べて土砂流出量は150分の1以下**に抑えられています。

(出展：「あいちの森林づくり」)

2 里山林整備事業

- 平成28年度には、県内17市町村で34団体が、里山林の保全・活用に取り組むなど、地域住民と協働によるモデル的な整備が進みました。
- モニタリング調査の結果では、下層植生の増加や光環境の改善が確認されました。

■里山林整備活動の状況

- この事業により、特に提案型里山林整備事業の実施地では、里山林の整備が進むとともに、地域やNPOによる継続的な取組につながっています。
- 活動団体数・活動日数・参加者数は年々増加しており、28年度には延べ2万人の方が活動に参加しています。

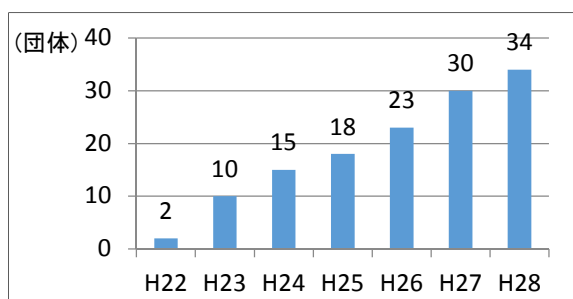


図 4-3 活動団体数

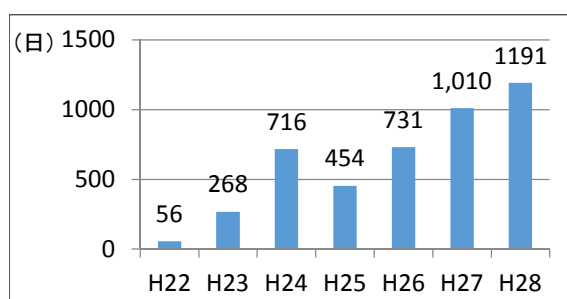


図 4-4 活動日数

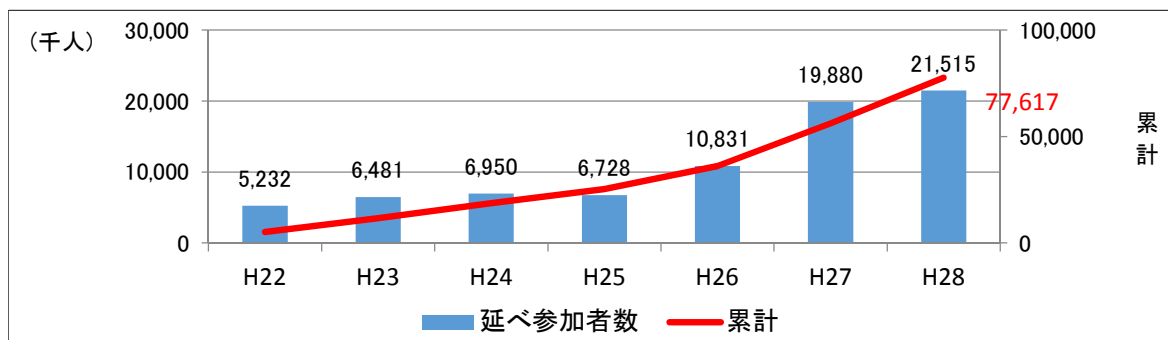


図 4-5 延べ参加者数

■里山林整備の相談件数

- 里山林整備に関して、市町村や地区自治会等からの相談件数は、事業開始前の平成20年度に比べ、2倍程度に増加しており、この事業を契機に里山林整備に対する意識の高まりが感じられます。

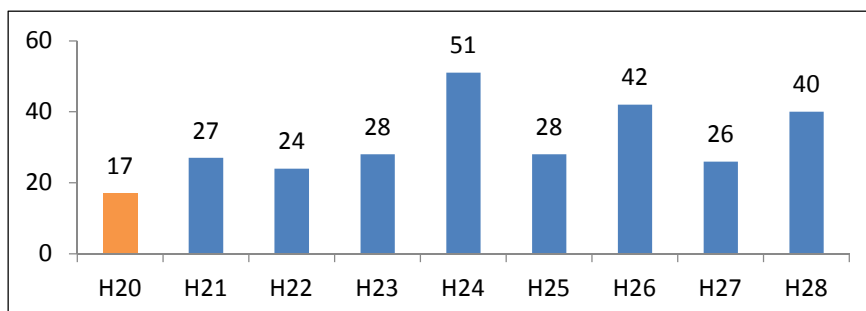
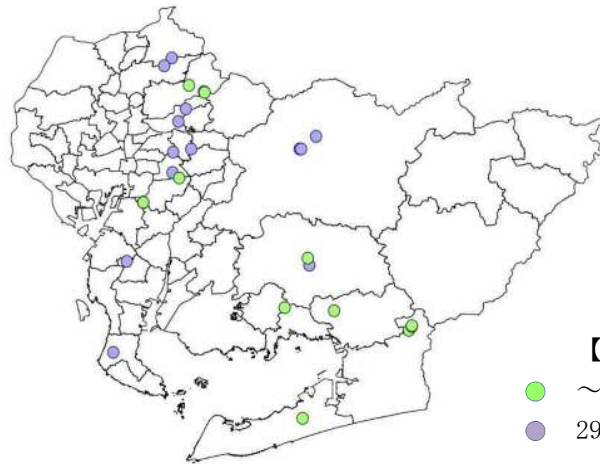


図 4-6 里山林整備の相談件数の推移

■モニタリング調査結果

- あいち森と緑づくり事業は、森林の公益的機能の維持増進を目的としています。
- 事業による効果を検証するため、県内各地の事業地の中から、平成 26 年度から平成 28 年度は 26 か所、29 年度は上記 26 か所のうち 12 か所にて、開空率や植生の多様性、ナラ枯れの発生状況のモニタリングを実施しました。

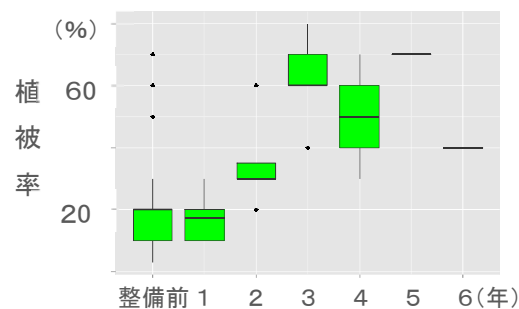


【モニタリング調査実施地点】

- ~28 年度のモニタリング地点
- 29 年度以降モニタリング継続地点

ア 下層植生の回復状況

- 植被率について調査した結果、整備後 1 年目では顕著な変化は認められなかったものの、2 年目以降著しく増加しました。



注：グラフの口印は、数値の分布を示している。
横太線は平均値を示している。

図 4-7 事業地における林床植物の植被率



整備後 1 年目



整備後 5 年

イ 下層植生の多様性

- 下層植生の多様度を調査した結果、整備後 1 年目では顕著な変化は認められなかったものの、2 年目以降は著しく高くなりました。

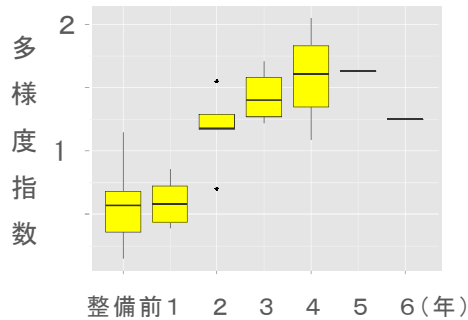


図 4-8 事業地における下層植生の多様度

ウ 開空率

- 整備による光環境の改善効果を、開空率により調査した結果、間伐後 4 年程度は効果が持続することが認められました。
- 今後は林冠が閉鎖していくことが予想されるため、引き続きモニタリング調査を実施します。

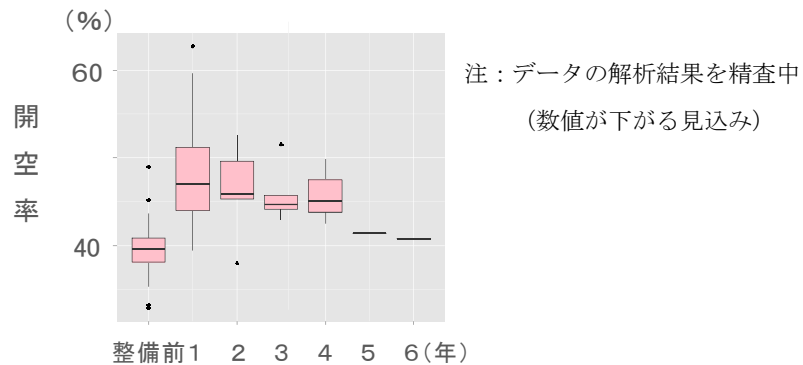
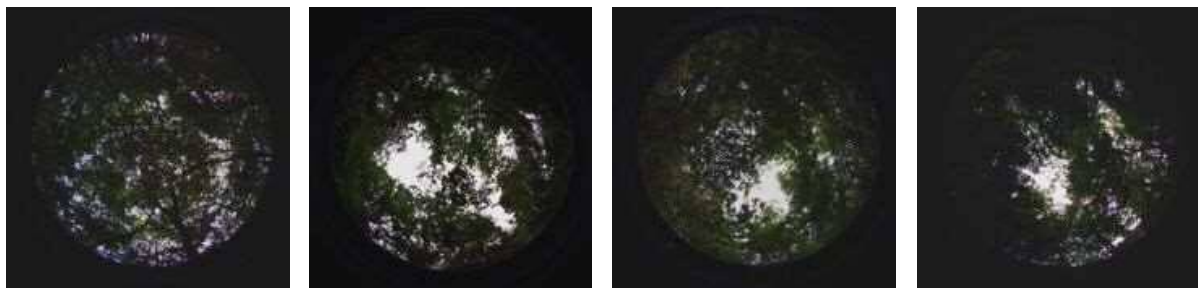


図 4-9 事業地における開空率

<整備前後の林冠の様子（全天空カメラにより撮影）>



整備前

整備後 1 年目

整備後 3 年目

整備後 5 年目

(調査地：小牧市大字大山地内)

エ ナラ枯れの発生状況

- 平成 29 年に新規に調査を設定し 12 か所の事業地を調査した結果、全事業地で新規のナラ枯れは確認されませんでした（調査継続中）。

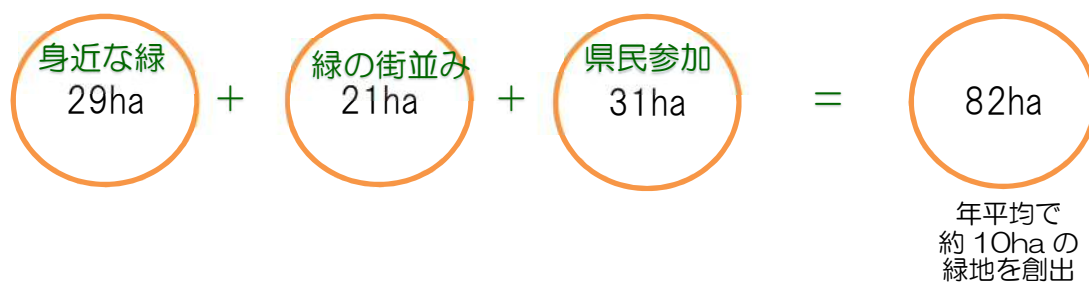
3 都市緑化推進事業

- 都市の環境改善や防災など様々な機能を発揮する都市の緑は、減少傾向にあります。
- 平成28年度までの8年間で、約82haの都市の緑を保全・創出しました。
- 県民参加緑づくり事業では、8年間で約16万人の県民が植樹体験や樹木講座など、緑に親しむ活動に参加し、緑化への意識向上を図りました。

■緑地の保全・創出

- 平成21年度から28年度の8年間で1,754件の事業に助成を行い、その成果として約82haの都市の緑を保全・創出しました。

<H21～28年度の実績>



身近な緑（半田市）



緑の街並み（名古屋市）



県民参加（大府市）

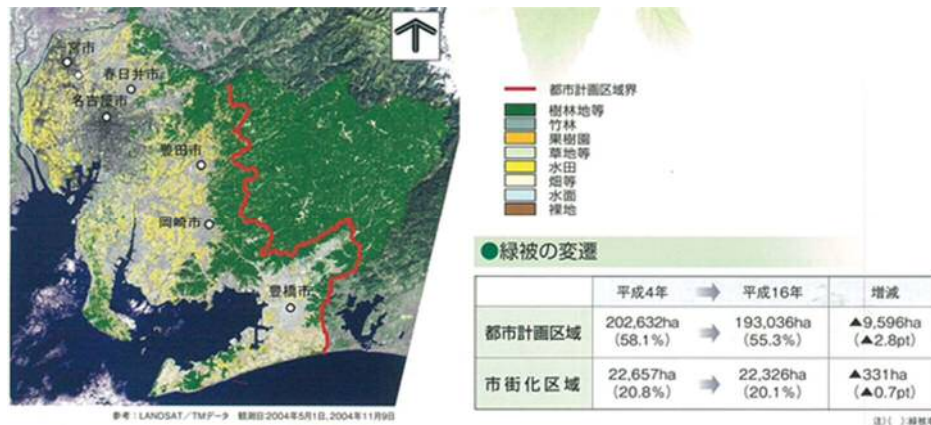
- 美しい並木道再生については、8年間で67kmの区間で、街の顔となる道路の街路樹等を再生しました。

並木道再生 67km



美しい並木道再生（知立市）

- 愛知県では、平成4年から16年までの12年間において、年平均で27.6ha^{※1}の都市の緑が減少しました。
- 平成21年度から実施した「森と緑づくり都市緑化推進事業」では、貴重な樹林の保全や民有地緑化の助成などにより、年平均で約10haの都市の緑を保全・創出しました。
都市緑化推進事業は市街化区域に限った事業ではないので単純に比較はできませんが、参考に比較すると、都市の緑の減少速度を約36%^{※2}遅らせることができた計算となります。
(※今年度予定している緑被面積等の調査結果に基づき、記述は修正します)

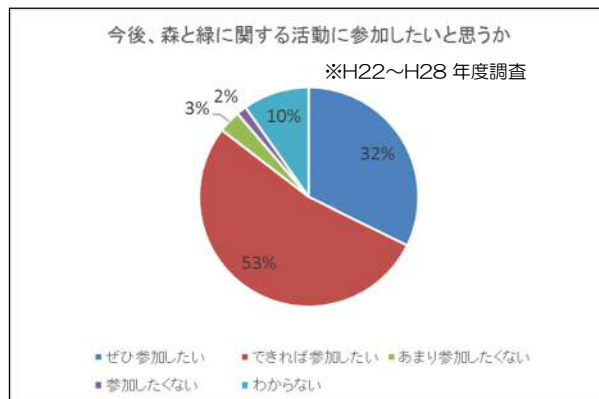
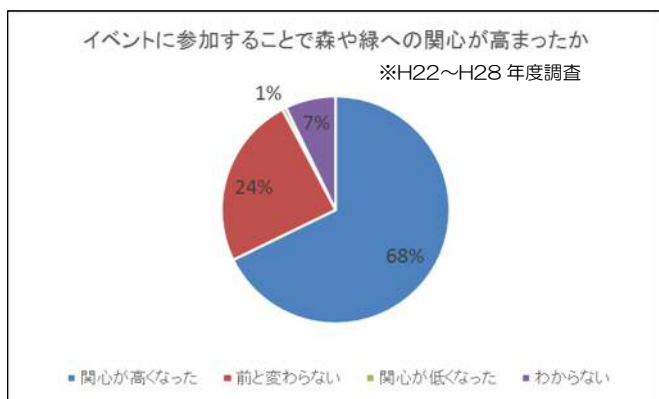


- ※1 市街化区域内の緑被面積 $\Delta 331\text{ha} \div 12\text{年} = \Delta 27.6\text{ha}$
- ※2 市街化区域を対象とした場合 $10\text{ha} \div 27.6\text{ha} = 36\%$
都市計画区域の場合は、同様に 1.3%

余白等

■ 県民参加の緑づくり

- 県民参加緑づくり事業では、延べ16万2千人の県民が、植栽体験や樹木講座などの緑に親しむ活動に参加しました。
- 事業に参加した県民にアンケートを行った結果、68%の方が「森や緑の関心が高まった」と回答し、今後の活動参加についても85%の方が「参加したい」と回答しており、普及啓発の効果がありました。



- 平成27年の第32回全国都市緑化あいちフェアでは、市町村のサテライト会場を含め300万人を超える方々にご来場いただきました。「森と緑づくり都市緑化推進事業」では、サテライト会場における県民参加事業に助成し、花と緑の普及啓発に取り組みました。

第32回 全国都市緑化あいちフェア



サテライト会場
(犬山市)



サテライト会場（安城市）



サテライト会場（豊橋市）

- また、当フェアの意義や成果を継承するため、平成28年度からは、駅前など街の顔となるような箇所において県内産花きを活用した県民参加のモデル事業により、花と緑の普及啓発に取り組んでいるところです。



県内産花卉を使用した駅前花壇（一宮市）



県内産花卉を使用した駅前花壇（豊橋市）

余白 等

4 環境活動・学習推進事業

- 交付対象となった事業の活動等への参加人数は、延べ52万3千人に達しています。
- 参加者へのアンケート調査では、9割以上が森や緑の重要性に対する理解が「深まった」と回答しています。
- 生態系ネットワーク形成の取組が、県内9地域で展開されています。

■活動等への参加人数

- 平成21年度から8年間で、交付対象となった事業への参加人数は延べ52万3千人となっています。
- 平成23年度以降は毎年延べ6万人程度が参加しており、森と緑づくりにつながる環境活動・学習推進のための事業として期待されていることがうかがわれます。

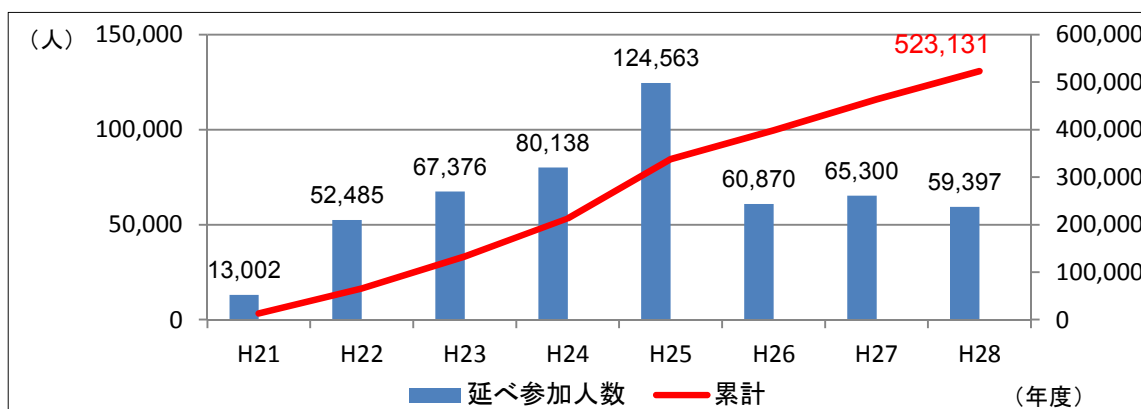


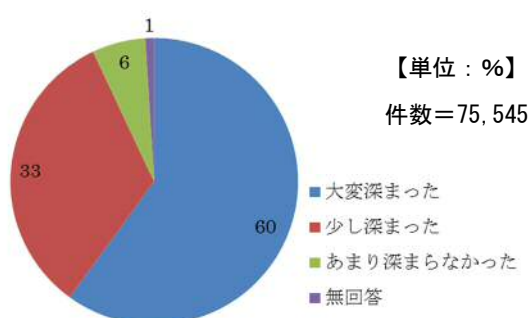
図4-10 交付対象となった活動等への参加人数

注)生態系ネットワーク形成事業は除く。

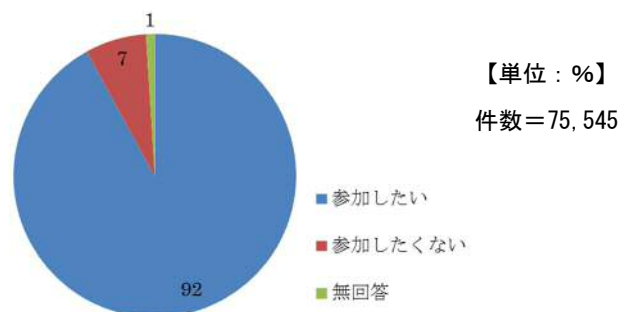
平成25年度は特定の2団体の参加人数が6万6千人を占める。

■参加者へのアンケート調査結果

- 参加者へのアンケート調査（平成21年度から28年度）では、9割以上が森や緑の重要性に対する理解が「大変深まった」「少し深まった」と回答し、また9割以上が今後も同様の取組に「参加したい」と回答したことから、県民の森と緑づくり活動に対する理解や参加に本事業が寄与していると考えられます。



問：取組に参加することにより森や緑の重要性に対する理解が深まったか。



問：今後も同様の取組に参加したいと思うか。

■環境活動に関する講座の開催

- 安全管理、企画、広報等をテーマとした講座を平成 26 年度から開催しています。参加者へのアンケート調査では、97%が「講座の内容を自身の活動に活用できる」と回答しており、NPO 等による環境活動・学習の発展やレベルアップに寄与しています。
- 活動発表・交流会は、交付金を活用した活動の発表や NPO 同士の交流の機会となっています。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
テーマ等	事業説明、安全、広報、活動発表・交流会	インタープリテーション、企画広報、安全管理、活動発表・交流会	コミュニケーション、安全、企画、広報、活動発表・交流会
参加人数	249 名	280 名	213 名



広報に関する講座の様子



活動発表・交流会

■生態系ネットワーク形成事業

- あいち生物多様性戦略 2020 に基づき、県内 9 地域で設立された生態系ネットワーク協議会により、大学、NPO、企業、行政等、多様な人々が共通の目標の下に連携して行うピオトープの創出等が県内各地域で展開されています。
- 交付金活用実績 (H26~29) : ピオトープ創出及び維持・向上 29 箇所



企業緑地内に整備した水辺ピオトープ

知多半島臨海部の企業等が連携し、水辺の創出等に取り組んでいます。新たに創られた水辺には、タヌキ・キツネやカエル・トンボなど、様々な生きものがやって来ています。



地域在来種の森づくり

西三河生態系ネットワーク協議会では、里山林で採ったタネから企業や学校、などで苗木を育て、緑化に活用することで地域に広がる在来種の森づくりを進めています。

5 森林整備技術者養成事業

- アンケート調査の結果、研修受講者及び受講者が勤務する会社の
 - 割が、研修で習得した技術が「現場で役立っている」と回答しています。
- 本事業の開始以降、森林整備事業体が増加しています。

■受講者等へのアンケート調査結果（平成 29 年度実施）

問：「受講生の習得した技術が実際の現場で役立っていますか。」

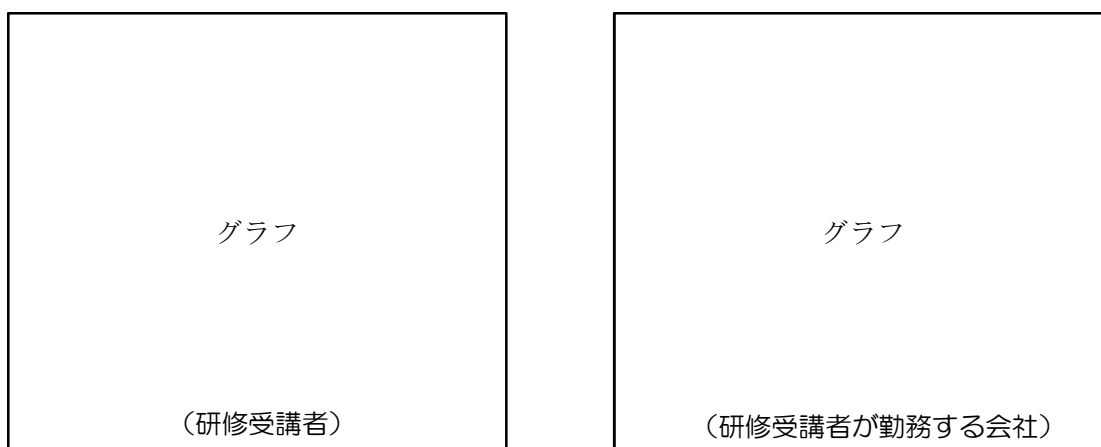


図 4-11 研修受講者等へのアンケート調査結果（平成 29 年度実施）

■森林整備事業体

- 本県が発注する森林整備工事の入札参加資格を有する 56 社^(※)の内、約半数の 29 社が従業員に本研修を受講させています。(※) 平成 29 年 7 月現在
- また、平成 28 年度に人工林整備事業を受注した 19 社の内、18 社が従業員に本研修を受講させています。
- 事業開始後、入札参加資格を有する森林整備事業体、及び森林整備事業（人工林整備）を受注する事業体が増加しています。
- これらのことから、本研修が、あいち森と緑づくり事業はもとより、県内の森林整備の推進に効果があったと考えられます。

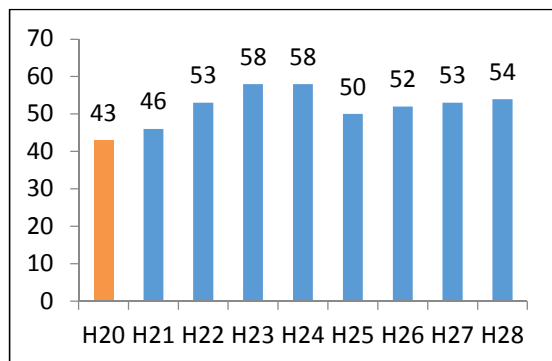


図 4-12 入札参加資格者数（森林整備工事）

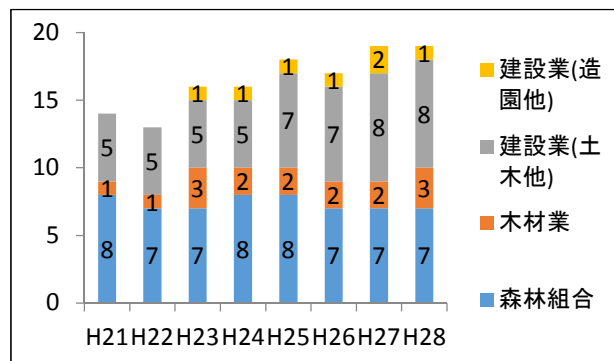


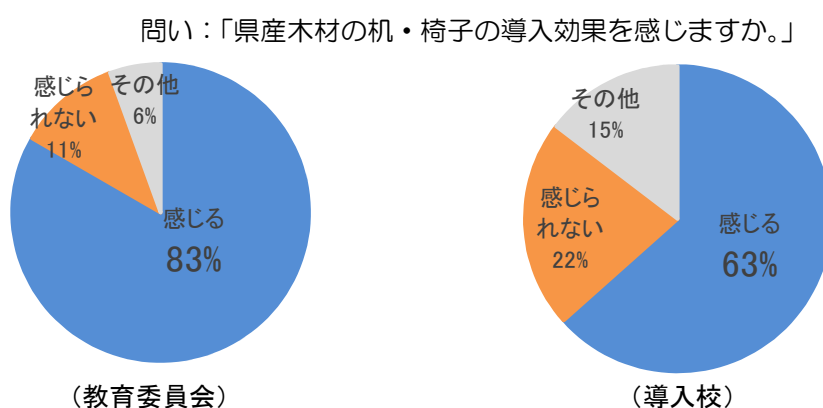
図 4-13 人工林整備事業の受注事業体数

6 木の香る学校づくり推進事業

- アンケート調査の結果、市町村教育委員会及び導入校の大半が、「導入の効果を感じる」と回答しています。
- 県産木材の机・椅子を「導入したい」と回答する割合は、導入校が未導入校の約2倍と高くなっています。

■学校関係者へのアンケート調査結果（平成28年度実施）

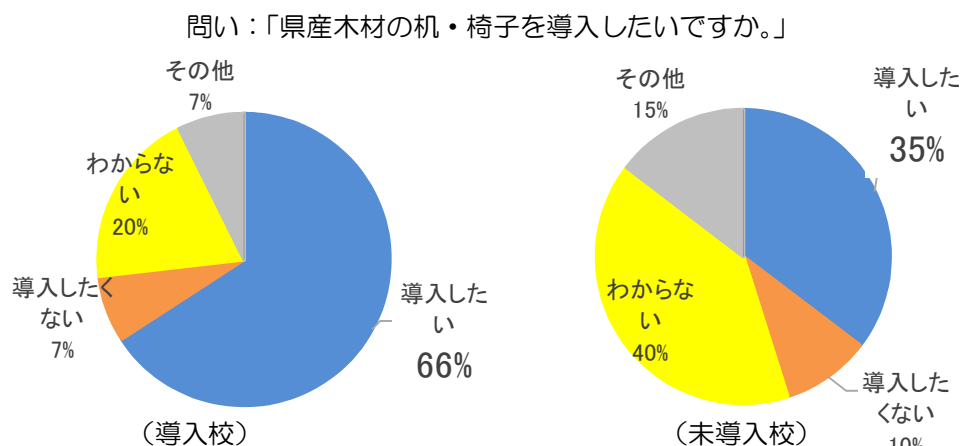
- 平成28年度に実施したアンケート調査によると、県産木材の机・椅子等を導入した市町村の約8割、導入校の約6割が「導入効果を感じている」と回答しています。



(机・椅子等を導入した学校関係者の声)

- ・あたたかい学習環境づくり、森林整備や森林保全の意義、自然災害の防止、木材利用方法などへの興味関心を高め、環境教育に役立っている。
- ・児童・生徒が机・椅子等を丁寧に扱うなど、物を大切にする気持ちが生まれている。
- ・明るい材質のため、生徒が傷つけたり汚したりすることが少なくなった。
- ・地域への愛着へつながっていると感じる。

- 今後、県産木材製品を「導入したい」と回答した学校の割合は、県産木材の机・椅子の導入校では66%、未導入校では35%と、導入校が未導入校の約2倍となっており、導入による効果が伺われます。



7 愛知県産木材利活用推進事業

- この事業により、間伐材の搬出量が増加しています。
- 県産木材を使用した木製ベンチは、利用者から好評であり、木材利用の普及啓発につながっています。

■間伐材の搬出量

- この事業は、平成 26 年度から開始した事業です。この事業により搬出された間伐材の量は、事業開始前の平成 25 年度に比べ、3割以上増加しています。

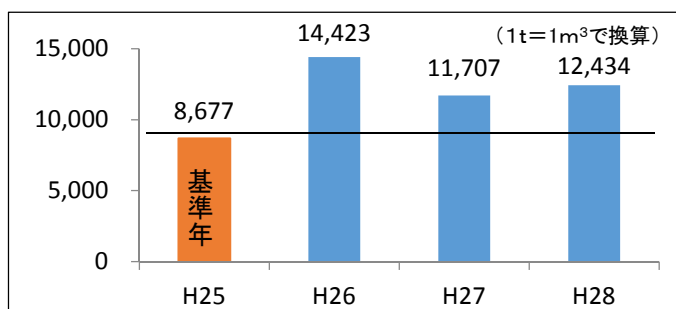


図 4-14 間伐材搬出量の推移

この事業は、市町村が間伐材搬出の取組に対して助成を行う場合に、その経費の一部を支援するもので、基準年（平成 25 年度）より増加した間伐材搬出量が支援の対象です。

■ベンチ導入施設へのアンケート調査結果（平成 29 年度実施）

- 平成 29 年度に実施したアンケート調査によると、県産木材のベンチを導入した施設管理者の約●割が、「利用者から好評」と回答しています。

問い：施設利用者の反応はいかがでしたか。



（施設管理者の声）

- ・利用者から、ベンチから出る香りのおかげでリラックスして本を読むことができ、とても良いとの声を聞いた。【図書館】
- ・木のぬくもりを感じることができると好評であった。【保育園】
- ・他の素材と比べ、自然な感じが好評だった。【公民館】

■ベンチ導入施設

- 導入施設の内訳を見ると、福祉施設で特に導入が進んでいます。
- 一般に、木材には温かみやリラックス効果があると言われており、このように実際に利用されることによって、木の良さの理解者が広がっていると期待されます。

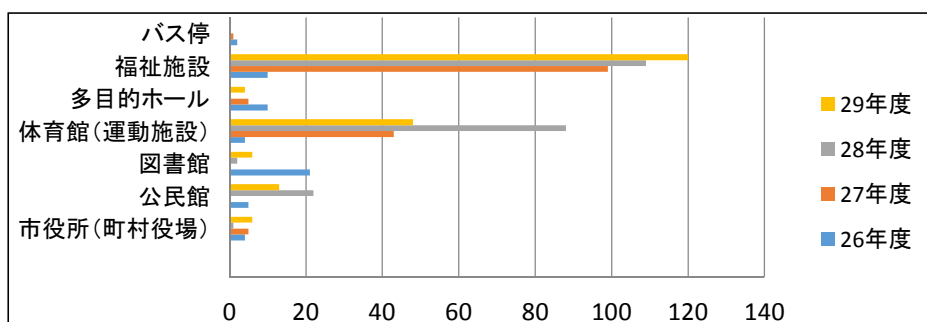


図 4-15 人工林整備事業の受注事業体数

第5章 県民や事業関係者等の意識

1 アンケート調査

※集計中

2 事業に対する意見、要望等

(1) 市町村・事業関係者等の意見、要望

区 分	主な意見
全 般	
人 工 林 整備事業	
里 山 林 整備事業	
都市緑化 推進事業	
環境活動 学習推進 事 業	
普及啓発 事 業	

(2) あいち森と緑づくり委員会における意見、提案

区 分	主な意見
全 般	
人 工 林 整備事業	
里 山 林 整備事業	
都市緑化 推進事業	
環境活動 学習推進 事 業	
普及啓発 事 業	

第6章 課題と今後の方向性

1 課題

※第3回あいち森と緑づくり委員会にて提示予定

2 今後の方向性

※第3回あいち森と緑づくり委員会にて提示予定

第7章 あいち森と緑づくり事業の取組事例

1 人工林整備事業

(1) 奥地



間伐前（写真上）、間伐直後（写真下）



現在（平成29年7月）

- 平成22年度に本数率で4割の強度間伐を実施しました。
- 間伐前は林内が真っ暗で、下層植生が全くありませんでしたが、間伐により林内が明るくなり、6年経過した現在では、少しずつではありますが、林内に下草が生えてきています。

【事業実施年度】平成22年度

【事業地】設楽町田口地内

【樹種・林齢】スギ・ヒノキ55年生

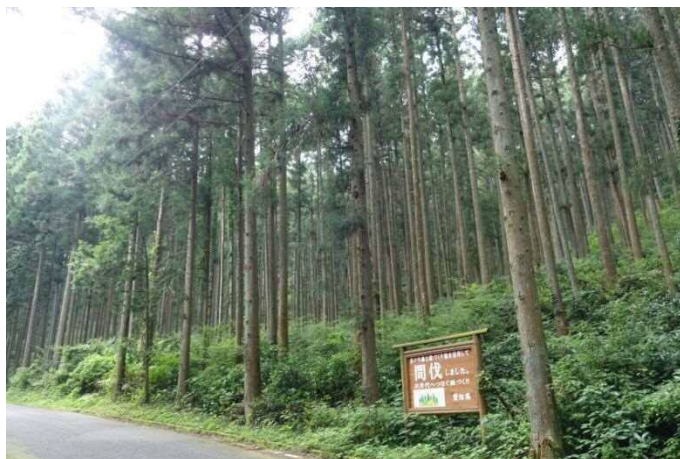
【立木密度】1340本/ha⇒778本/ha

(2) 公道・河川沿い



間伐直後

- 【事業実施年度】平成 24 年度
- 【事業地】新城市大野
- 【樹種・林齢】杉・ヒノキ 20~60 年生
- 【立木密度】14,000 本⇒8,535 本



現在（平成 29 年 7 月）

- 「阿寺の七滝」に通じる県道沿いのスギ・ヒノキ人工林を一体的に間伐しました。
- 交通の妨げにならないよう、また道路沿いの電線を切断しないよう、道路とは反対方向に木を倒す必要があり、ワイヤロープで牽引しながら慎重に伐採作業が行われました。
- 本数率で 4 割の強度間伐を実施した結果、林内が明るくなり、事業実施後 4 年を経過した現在では、下層植生が繁茂して土砂流出防止などの公益的機能が向上しつつあります。
- 滝を訪れる多くの観光客から目につく場所に PR 看板が設置されており、事業の周知にも効果を上げています。

雪害地の復旧

- 平成 26 年 2 月 14 日の降雪により、北設楽郡豊根村を中心にスギの着雪による幹折れの被害が多発し、電線の切断等、ライフラインにも大きな影響が生まれました。
- これらの被害地において、被害立木の間伐、折れた幹の林内整理を実施しました。
- 写真の号地（約 0.6ha）では、全損に近い被害を受け、森林として復旧の見込みがなかったため、被害木をすべて伐採搬出、処分しました。
- その後、森林所有者により植栽がなされ、順調に生育しています。



被災状況



施工直後



現在（平成 29 年 7 月）

2 里山林整備事業

(1) 提案型里山林整備事業

【事業実施年度】平成 25・26 年度

【事業地】豊明市沓掛町

【整備内容】階段・木橋・進入防止策・
パーゴラ・ベンチ・案内
板の設置、森林整備

事業により整備した階段、進入防止策→



活動状況（左から自然観察会、下草刈り、不要木の伐採）

- 活動団体（二村山自然観察会）が、毎月、自然観察会を開催するとともに、年間27回、雑木林の保全整備作業、小湿地の維持作業を行っています。
- また、市民向けに「春の自然観察会」「巣箱の設置・管理」「夏の虫さがし」「ビートルベット作り&落ち葉遊び」なども開催しています。
- 地域住民、NPO、自治体が協働して里山林の保全・活用が積極的に行われています。

(2) 里山林健全化整備事業



全景



林内の状況



植樹したモミジ

【事業実施年度】平成 25 年度

【事業地】豊田市迫町

【整備内容】不要木の除去、下刈り

- 放置された里山林において、この事業により不要木の除去、下刈りを行いました。
- 事業の実施を契機に、魅力ある迫地区の発展を目指して設立された団体「迫 次創会」により、事業実施後も月に 1 回の里山林整備が行われています。
- 整備内容としては、草刈りや除伐、散策路・交流広場の整備、進入路の舗装、階段の設置、桜やモミジの植樹、案内看板の設置など多岐に及んでいます。
- 特に放置竹林を駆除した跡地には、桜、モミジ、しだれ桃などを地元の子どもたちと一緒に植樹し、植樹の記念にプレートをかけています。

(3) 里山林再生整備事業



【事業実施年度】平成27年度
【事業地】美浜町大字豊丘
【整備内容】不要木の抜き切り、竹の伐採、丸太柵工、竹筋工、作業歩道等

- 事業実施後、毎月1回程度、地元区民等が活動をしています。
- 施工地は広く地元区民等に開放しています。春のタケノコ収穫の期間も、地元区民なら誰でも採れるようにしているため、親竹として残す竹には伐採しないように注意喚起のカードを付けるなどにより、竹林の管理を行っています。
- 地元区民等の継続的な里山林保全・活用の活動が、他の地区のモデルとなり、他市町からも視察に来るグループがいるほどです。

3 都市緑化推進事業

(1) 身近な緑づくり事業



【事業実施年度】平成23年度

【事業地】扶桑町

○用地買収による緑地の保全

「美しい愛知づくり景観資源 600 選」に選ばれた名鉄犬山線扶桑駅近くの樹林地（面積約 0.89ha）を町が買い取り、緑地を保全。



現在（平成29年）

【事業実施年度】平成27～28年度

【事業地】北名古屋市

○緑地の創出（北名古屋市）

寄附を受けた土地に、市民が憩う公園緑地（約 2,700m²）を市が整備

(2) 緑の街並み推進事業



現在（平成29年）

【事業実施年度】平成23年度

【事業地】名古屋市

○屋上緑化

オフィス兼マンションの屋上緑化を整備。約 80 m²の芝生に、菜園、花壇を整備し、常緑高木のシマトネリコを植樹。



【事業実施年度】平成22年度

【事業地】名古屋市

○駐車場緑化

COP10 に併せてホテルの駐車場緑化を整備。名古屋工業大学の協力により、環境変化の調査を実施。



【事業実施年度】平成23年度
【事業地】小牧市

○壁面緑化

フッキソウ、ヤブコウジ、ツワブキなど40種の植物を植栽し、生育状況等を検証。



(平成28年現在)

【事業実施年度】平成24年度
【事業地】岡崎市

○空地緑化

マンションの敷地内(約600m²)に、樹木(中高低木約2600本)や地被類を植栽



(平成24年当時)



現在(平成29年)

【事業実施年度】平成24年度
【事業地】大府市

○空地緑化

知多半島の生態系ネットワークづくりの一環としてJR東海道線大府駅近くで企業がピオトープ(面積約1,100m²)を整備し、一般に開放。(平成24年実施)
平成29年現在、右写真のようになりました。

(3) 美しい並木道再生事業



(平成28年)



(平成26年)

【事業実施年度】平成24年度

【事業地】豊川市

○並木道再生

市民に「桜トンネル」と親しまれている並木道の再整備。
老木の桜を植え替え、郷土風景を次世代へ承継。

(4) 県民参加緑づくり事業



現在(平成29年)



現在(平成29年)

【事業実施年度】平成21年度～

【事業地】弥富市

○県民参加による植樹祭

市民による三ツ又池植樹祭を開催し、芝桜を植栽。
多くの市民が訪れる人気のスポットに。



【事業実施年度】平成23年度
【事業地】一宮市



【事業実施年度】平成22年度
【事業地】みよし市

○県民参加による園庭芝生化

園児のけがの減少、環境や緑化への興味
の増加などの多様な効果がある園庭
の芝生化。

○県民参加による園庭芝生化

園児やその家族、地域の方々の参加でポッ
ト苗方式の芝生化を実施。

- 8年間で13市81の保育園、幼稚園や小学校等の園庭・校庭を芝生化。



(平成22年当時)



現在(平成29年)

【事業実施年度】平成22年度
【事業地】大府市

○県民参加による植栽

二ツ池公園で市民が育てたドンダリの苗木などを市民参加により植樹。(平成22年)
平成29年現在、右写真のように育ちました。

4 環境活動・学習推進事業

(1) 森・緑の育成活動事業

【実施団体】かすがい里山自然楽校
【事業名】市民憩いの森づくりプロジェクト
【実施年度】平成26年度～平成29年度
【実施場所】春日井市大泉寺町



- 雑木林の環境整備や希少動植物の調査、生息地保全、歩道整備、維持管理を行っています。また、生物多様性を伝える広報、普及活動や子供会などを活用した自然観察会、体験イベントを実施しています。

(2) 水と緑の恵み体感事業

【実施団体】矢田・庄内川をきれいにする会
【事業名】水源の森の恵みを活用し、生物多様性を実現しよう
【実施年度】平成21年度～平成29年度
【実施場所】名古屋市千種区・守山区、尾張旭市



- 水源からのもたらされる水が下流域において十分に活用されているか検証するため、矢田川において魚道の遡上能力を上下流で魚を捕って調べる、川の生物に触れながら、捕り方や名前を知る、水量・水質などの棲息条件が水源の森の恵みと人間の生活によることを知る、といった活動を実施しています。

(3) 森林文化の体験・学習事業

【実施団体】 特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょう

【事業名】 奥三河の森林保全と間伐ボランティア活動

【実施年度】 平成 24 年度～平成 29 年度

【実施場所】 新城市作手



- 荒れた山を「水源の森」とするため、市民ボランティアで「エコネットチェーンソー」を結成し、訪れる機会の少ない奥山での間伐作業を行っています。また、針葉樹を広葉樹を含む混交林に変換し、生物多様性豊かな森に変え、その重要性について啓発活動を行っています。

(4) 森林生態系保全の学習事業

【実施団体】 金城学院大学

【事業名】 東部丘陵地域の里山学習プロジェクト

【実施年度】 平成 23 年度～平成 29 年度

【実施場所】 名古屋市守山区



- 丘陵地に残る大学内の里山を活用し、地域住民に生物多様性への理解を深めていただけるよう、竹の炭焼き体験講座、わら縄編み体験、リースづくりを開催しています。自然林に入って里山の営みを体験したり、恵みを体感するなど、里山が身近で豊かな自然であることを知っていただけるよう、学生と教職員が一緒になって講座を企画しています。

(5) 太陽・自然の恵み学習事業

- 【実施団体】刈谷市
【事業名】かりやグリーンカーテン事業
【実施年度】平成25年度～29年度
【実施場所】刈谷市



- 市域全体で地球温暖化防止、省エネの取組を推進するため、家庭・事業所を対象としたグリーンカーテンコンテストを実施し、参加者には種やネット、作成マニュアルを配布しています。また、幼稚園・保育園・小学校などにグリーンカーテンを設置し、環境教育に活用しています。

(6) 生物多様性に関連した独自提案による環境活動・学習事業

- 【実施団体】一般社団法人名工家
【事業名】教室の空気はビタミン材運動
【実施年度】平成24年度～平成29年度
【実施場所】名古屋市



- 教室や共用部分に設置する間伐材の掲示板を児童と一緒に作製しています。また、木材を使っている大工さんから森や木の話を知るとともに、県産間伐材を使ってのこぎりやカンナ体験を行うなど、森林についての環境授業を実施しています。

(6) 生物多様性に関連した独自提案による環境活動・学習事業

【実施団体】井ヶ谷町内会

【事業名】ため池の生物多様性の調査及び水質浄化の検証

【実施年度】平成26年度～29年度

【実施場所】刈谷市井ヶ谷町



- ため池において、健全な生態系の保全や水質浄化を図るため、地元住民や学生などの協働により、池の水を抜いて魚を捕る「池もみ」を実施し、外来魚の捕獲や水質調査を行いました。地区住民、大学、行政の連携のもと、生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の実践を通じて、地域全体の環境活動の機運を高めることができました。

(7) 生態系ネットワーク形成事業

【実施団体】西三河生態系ネットワーク協議会

【事業名】苗木循環育成モデル化事業

【実施年度】平成26年度～平成29年度

【実施場所】幸田町、岡崎市他



- 西三河地域の生物多様性向上、生態系ネットワーク形成を目指して、企業、消費者団体、学校などが協力して、地域在来種（コナラ・アベマキ等）の育苗、植樹に取り組んでいます。植樹会・自然観察会や学校・家庭での地域性苗木の育成（1年間）を通じて、生物多様性保全に対する理解が高まり、コラボレーションが深化しています。

5 木の香る学校づくり推進事業



林業普及指導員による講座の様子



生徒自ら「あいち認証材」のラベル貼り

- 美浜町は、町内全8小中学校に、「あいち認証材」を用いた机、椅子、ロッカー、教卓を導入しています。
- 児童・生徒が毎日、愛知県産の木材に触れてもらうことにより、木に親しみ、あわせて森林整備の大切さについて理解してもらえる環境を整えています。
- さらに理解を深めてもらうため、林業普及指導員が、町立奥田小学校において、「あいち森林なるほど講座」を実施し、導入された教卓を事例に県産材利用の講義を行いました。
講義後には、導入された机・椅子に、児童たち自らが「あいち認証材」のラベルを貼り、身近にある県産木材製品の利用が、公益的機能に貢献していることへの理解を深めました

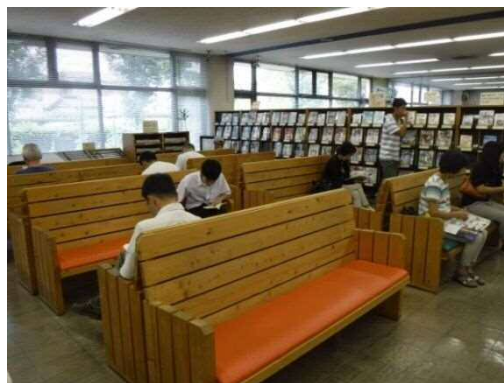
6 愛知県産木材利活用推進事業

(写真)

- 新城市内で実施されている「木の駅プロジェクト」は、森林所有者や有志のグループなどが山で未利用となっている林地残材を「木の駅」に集めてチップ業者に販売することで、1トンあたり6,000円分の地域通貨を発行し、間伐材の有効利用と地域振興の一石二鳥をめざす取組です。6,000円/トンの内、木材販売収入は3,000円/トン余りで、残りの3,000円/トン分について、新城市が助成しており、その一部をこの事業により支援しました。
- 木の駅の参加者からは、「間伐で切り捨てて置くしかなかった木が活用できてよかった。」「自分の山に久しぶりに行った。」「地元の商店を利用する機会が増えた。」などの声が聞かれました。また、事務局の方は、「木の駅プロジェクトは財源が少なく、このような助成があることで大変に助かっている。」とのことでした。
- 木の駅プロジェクトの活動を通して、地域内の未利用森林資源が有効活用されるだけでなく、山主や地域住民が、地域の森林に対してより関心を持ってもらうことができ、また、地域の振興にも繋がられています。



祖父江の森温水プール(稲沢市)



尾張旭市立図書館(尾張旭市)

子どもからお年寄りまで幅広く利用されている祖父江の森温水プールの2階観覧スペースのベンチをプラスチック製から木製にしました。木製のベンチに替わったことで、観覧スペースの雰囲気明るくなったと評判になっています。肌触り、座り心地がよく、温かみのあるベンチに腰掛けて、プールを楽しむ様子をゆったり観覧することができます。

尾張旭市立図書館内の閲覧室や正面玄関横などに木製ベンチを設置しました。木製ベンチから発せられる爽やかなヒノキの香りでリラックスできると、多くの利用者から好評です。利用者の皆様には、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中で読書を楽しんでいただけるようになり、くつろぎやすい休息の場として、木製ベンチをご利用いただいています。

資料編 目次

1	事業等の実績及び成果・波及効果等	資-1
	(1) 事業PR関係	資-1-
	(2) あいち森と緑づくり基金への寄付状況	資-1-
	(3) 森林関係のイベントでのあいち森と緑づくり事業に 関するアンケート集計結果	資-1-
	(4) 市町村別事業実施箇所数等（平成 21～29 年度）	資-1-
	(5) 人工林整備事業関係	資-1-
	(6) 里山林整備事業関係	資-1-
	(7) 都市緑化推進事業関係	資-1-
	(8) 環境活動・学習推進事業関係	資-1-
	(9) 森林整備技術者養成事業関係	資-1-
	(10) 木の香る学校づくり推進事業関係	資-1-
	(11) 愛知県産木材利活用推進事業関係	資-1-
2	あいち森と緑づくり事業アンケート結果	資-2
	(1) 一般県民	資-2-
	(2) 法人	資-2-
	(3) 市町村	資-2-
	(4) 事業関係者	資-2-

資料編は添付省略